

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)  
事業期間を通じた評価

国立大学法人滋賀大学 学長 殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)の事業期間を通じた評価について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり評価結果をお示しします。  
あわせて、本検討会の所見についても別紙のとおりお示しします。

記

S	当初の構想を上回る取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。
---	---

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)の  
事業期間を通じた評価

国立大学法人 滋賀大学

(検討会の所見)

- 小規模な大学ながら、国内初のデータサイエンスの本格的な教育・研究拠点としての高い成果を上げ、社会貢献を実現していると高く評価できる。今後も学部・修士課程・博士課程のそれぞれのレベルでの教育の面で、また、対外的な講座の提供や実業界との連携をさらに強化していくことが期待される。
- KPI をほぼ達成するなど、大学の取り組みを高く評価する。特にデータサイエンス分野において滋賀大学の存在を確固たるものとしており、今後の更なる展開を期待したい。
- 頼りになる文理融合型大学は、社会ニーズである。この状況下、民間企業からの認知、評判も飛躍的に向上している。KPI をしっかり達成しつつ、さらなる向上が期待できる。
- データサイエンスにリソースを集中し、教育界や産業界との連携を着実に実施し、大きな成果を挙げている。KPI も順調に目標を達成している。特に、共同研究や外部資金間接経費収入や講座受講者数の KPI が目標を大きく上回っているのは、産業界からの期待にも十分応えている証左であろう。経営改革は構想を超えるものとなっていると考える。今後は、教育や経済にとどまらない多様な領域知識が不可欠になるため、他大学との連携を更に進めて頂きたい。
- Society5.0 時代のデータサイエンティスト育成という我が国の社会的要請に正面から取り組み、また、そのための学部と大学院研究科を創設することで、我が国において数十年にわたってその必要性が叫ばれてきて文理融合問題に対して、実例を示したものでもあり、その意味でも極めて意義ある改革である。教育の成果を MOOC を使い一般に提供し、また、経営面でも産学公連携の好事例にもなっており、教育研究資金の確保にもつながっている。KPI についても問題はない。この新しい学部・研究科の活動によって既存の部局の活性化も刺激している。事業終了後の展開についても、データサイエンス・AI 領域を核とした先進的教育研究拠点の形成が考えられており、意欲的である。

次項あり

- データサイエンス領域に焦点を絞っていて、当該の人材輩出を目的とした明確な構想であり、喫緊の社会的要請に応えるものである。構想は順調に進捗していると認められる。

但し、この構想を大学の経営基盤の強化にどのように結びつけるのかという視点からは、間接経費収入増と関連分野の整備だけでなく、その全学的な活用の仕方等についての考え方をさらに整理してほしい。

- データサイエンス学部の創設から次にどのような地域大学の拠点へと昇華していくのか、次のビジョンが必要であろう。